

事業概要シート

施策	0102	親と子の健康増進	≪≫の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く		
事業名	赤ちゃん訪問事業	現状維持	予算額	5,913	千円
事業期間	平成19年度	～	≪≫	9,084	千円
根拠法令 要綱等	母子保健法、第2次健康おおむら21計画、子ども・子育て支援交付金要綱	財 源 内 訳	国庫支出金	1,969	千円
			県支出金	1,969	千円
			地方債		千円
			その他		千円
			一般財源	1,975	千円

【事業の目的・概要・対象】

【目的】

産婦やその家族に対して、センター職員及び地域の母子保健推進員が訪問による面談を行い、新生児・乳幼児の発育に関する不安軽減を図るとともに、必要に応じて継続支援等に繋げる事を目的とする。

【概要】

第1子及びリスクの高い家庭（＊）を保健師・助産師が訪問する。第2子以降のリスクの低い家庭を母子保健推進員が訪問する。家庭訪問時には、母子の状況観察や保健指導、各種子育てサービス等の情報提供を行う。母子保健推進員が訪問した後、必要時に保健師・助産師が継続支援を行う。また、母子保健推進員が訪問できなかった家庭に対しては、保健師・助産師が継続的に連絡を取り対応する。

母子保健推進員の資質向上のため、年間2回の研修を行う。

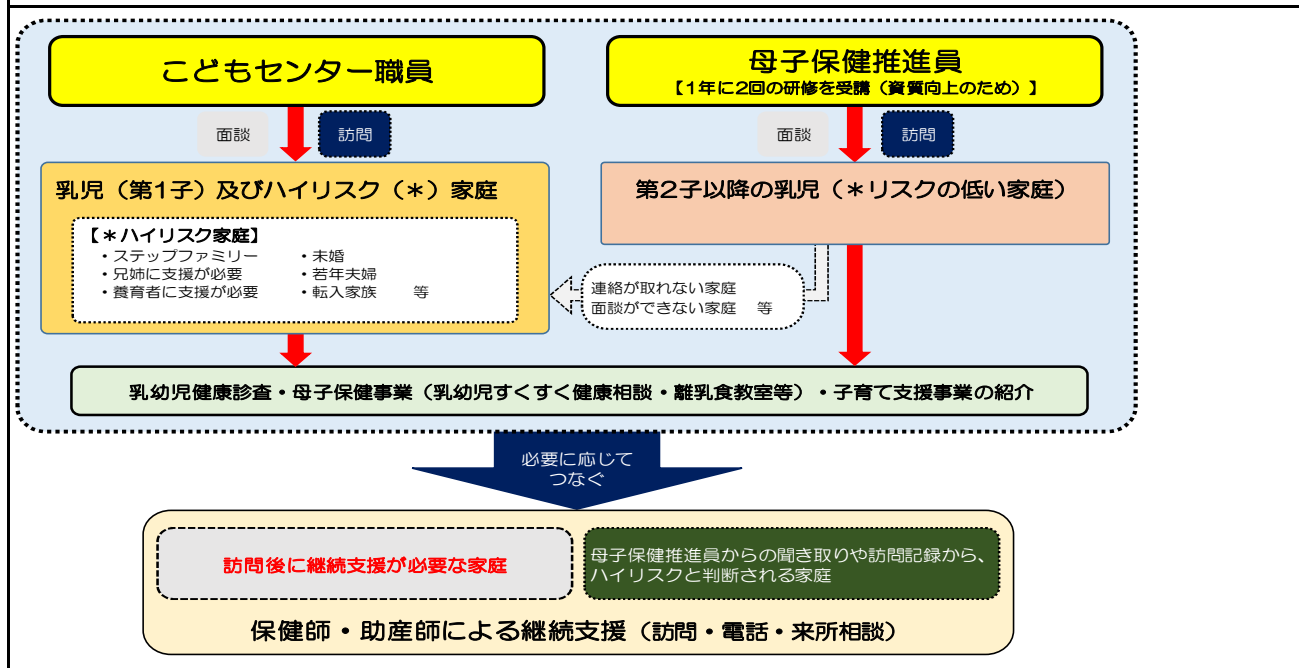
（＊リスクの高い家庭：ステップファミリー、未婚、若年夫婦、転入家族等。）

【対象】

産婦やその家族及び新生児・乳幼児

【その他】

R6-R7比の予算額減は、他事業との職員人件費の組換えによるもので実際の従事職員数に変更なし。



【背景】

近年は核家族化が進み、親族と離れたところで妊娠・出産することが多くなっている。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、妊産婦も孤立しやすい環境下におかれている。さらに、社会心理的背景から親子の関係に様々な事情を抱え、親を頼れない妊産婦が少なからずいる。一日の多くを一人で子育てしている家庭も多く、乳児の健やかな発達のためには、育児に関する不安や悩みを解消し、様々な関係機関が支援を行うことが重要となっている。

担当課	こども未来部こども家庭課	課長	石丸 博子
担当者	山下 真波	問合せ先	0957-54-9100

事業概要シート

【活動指標】

指標名			単位	R 5 (実績)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)
①	赤ちゃん訪問件数（保健師・助産師）	計画値	件	564	535	535	535	535
②	赤ちゃん訪問件数（母子保健推進員）	計画値	件	201	279	279	279	279

【成果指標】

指標名			単位	R 5 (実績)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)
①	保健師・助産師訪問率	計画値	%	96	85	85	85	85
②	母子保健推進員訪問率	計画値	%	90	95	95	95	95

【予算・決算】（千円）

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計
事業費	7,628	8,154	9,084	5,913	5,913	5,913	42,605
国庫支出金	1,718	1,750	1,782	1,969	1,969	1,969	11,157
県支出金	1,718	1,750	1,782	1,969	1,969	1,969	11,157
地方債							0
その他							0
一般財源	4,192	4,654	5,520	1,975	1,975	1,975	20,291
人件費	5,755	3,615	3,220	3,220	3,220	3,220	22,249
職員(人)	0.77人	0.48人	0.44人	0.44人	0.44人	0.44人	3.01人
時間外勤務(h)	78h	62h	10h	10h	10h	10h	180h
会計年度任用職員(人)							0.00人
フルコスト	13,383	11,769	12,304	9,133	9,133	9,133	64,854

妥当性 (市の関与)	全ての乳児家庭を訪問し、支援が必要な家庭の早期発見・早期支援を図ることにより虐待等の防止につなげることができる。また、母子保健事業・子育て支援事業とを関連させて支援を継続することが必要である。
有効性 (施策貢献度)	育児に関する不安や悩みを傾聴するとともに、子育て支援に関する情報提供を行うことにより、乳児の健全な発達育成につながっている。
効率性 (コスト)	第2子以降（リスクの低い家庭）は、母子保健推進員に訪問してもらい、コストの削減に努めている。母子保健推進員は、スキルアップのため、年に1～2回の研修を行いながら、地域の家庭訪問を実施している。

1次評価	担当者の記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり